

### 組 藤田 VRによる認知症体験セミナー開催 認知症患者と家族の日常生活を疑似体験

藤田組は2019年12月6日、東京都中央区日本橋倶楽部で第26回企業セミナー「VRによる認知症体験セミナー」を開催した。VRの技術を活用し、認知症患者本人や、その家族の日常生活を疑似体験するという内容で、(株)シルバーウッドVR事業部高齢者住宅事業部の飛弾愛氏が講師を務めた。当日は、機械メーカー、サービス業、販売業などの企業の関係者を中心に40人が参加した。開会に当たり、同社代表取締役社長の藤田徹氏があいさつし、「当社では年に2〜3回、その時のテーマに

応じたセミナーを企画している。今回のセミナーは、以前に私自身が参加したことがあり、認知症に対する印象が変わる内容だった。これから高齢化社会の時代に入り、介護や認知症はますます身近な問題になってくる。ぜひ皆さまにも体験していただきたい」と述べた。



VR体験中

住宅の運営」や「VRによるセミナー開催」などシルバーウッドの業務内容やセミナーの実施例を説明。認知症体験セミナーは、教育機関・医療介護事業者・行政機関・自治体・一般企業において、多数開催している

と述べた。同氏は、「共感のギャップ」が認知症に対する偏見を助長していると指摘し、事例として、「風邪をひくことを体験している人は過去の体験から無意識にそれを想起し、そのつらさを共感できる。しかし、認知症の症状は体験していないので、意識して理解しようとするが、本質的にはそのつらさを共感できないことが多い」と説明した。

その後、VR装置を装着し、認知症体験がスタート。今回は、認知症の中核症状を体験することができる「私をどうするのですか?」「ここはどこですか?」「レバー小体病幻視編」の三つのコンテンツを体験した。それぞれの状況において、認知症患者はどのような感じているかをリアルな画像と音で体験することができ、空間認識機能が衰えることで、段差を降りるときにビルの上から飛び降りるように見える場面では、参加者から思わずどよめきが起こった。

また、セミナーでは認知症の人へのインタビュウやビデオメッセージも上映され、単なる「物忘れ」「徘徊」などの認知症に対する誤った理解や偏見を解消するきっかけとなる内容だった。

参加者同士は、セミナー体験前と体験後に認知症に関する意見交換を行い、知識として知っていた認知症と体験して感じた認知症のギャップに議論が弾んでいる様子だった。

体験終了後、飛弾氏は「認知症予防の大切さについてはよく言われているが、初期の認知症についての理解がまだ進んでいない。認知症について今日体験したことを、家族や周りの人たちにもぜひ話してほしい」と述べ、セミナーを締めくくった。